

大高城下町コース

大高散策路 約 3.9km
JR 大高駅―250m―八幡社―200m―大橋（大高川）―50m―江明公園―50m―酒蔵（神の井酒造）―150m―薬師寺―50m―酒蔵（山盛酒造）―200m―新町西口地蔵尊―300m―酒蔵（萬乗醸造）―150m―東昌寺―50m―古井戸―150m―春江院（墓地余延年、山口耕軒ら）―300m―大高城跡―300m―秋葉社―100m―弥陀寺（十王堂）―200m―海岸寺―400m―津島社―150m―碑石公園（森の里団地）―300m―菊井橋―500m―JR 大高駅

① 大高駅（緑区大高町鶴田）TEL050-3772-3910
JR 東海サービス相談室
明治十九年（1886）三月一日県内で武豊、半田、亀崎、緒川、熱田とともに最初に設けられた鉄道駅。当時は単線で駅舎はなくホームが一本あるのみ。切符の販売は駅前の個人宅に委託されていた。その後二二年に東海道線が全通し、駅舎が何時整備されたかは解らないが、明治四十年には複線になり利用者は徐々に増えつつあったが昭和十年（1935）大日本紡績（現ユニチカ）が誘致されると専用線が設置されるや駅舎の改築がなされた。昭和二八年には念願の電化が完成。煤煙から解放され、三七年に新幹線工時につき橋上駅に。それまでは町屋の主力は西側にあるのに東口しかなかったが東西自由通路ができ便利になった。昭和五三年高架化された時に駅前が整備され現在の駅に作り直された。

② 八幡社（大高八幡社）（緑区大高町屋川 14）TEL 052-621-6012
JR 大高駅西三百米の所にあり、祭神は応神天皇、神功皇后、玉依媛。新伝（原田家）によれば火高見城（大高城）主花井備中守が当所と大高城内に鶴岡八幡宮を勧請し、広大な神域を持っていたが大高小学校（現北小学校）の敷地にあてられたりした。元は村社で氷上姉子神社について建物の規模は大きく社殿、拝殿、末社、石鳥居などがある。家康も永禄四年（1561）若武者のとき参詣祈願した記録がある。昭和五六年（1981）に本殿を、平成十一年社務所の改築、平成十三年（2001）には拝殿、祝詞殿の改築、水手舎の新築、玉垣の新設工事が行われ十四年九月に竣工奉祝祭が執り行われた。

江戸時代は武士は城山八幡社（城内）に参り、庶民はこの八幡社を参ったと言われる。境内の隅に大高小学校の奉安殿が修復されて残っている。

③ 大高川
大高町の中央部を東南から西北に水源を水主ヶ池に発し、蛇池からの瀬木川を合流し街の中央を流れ扇川に注いでいる。かつては水運として利用され大橋付近には船戸町という船頭や船問屋を家業とする集落があった。下流より新高橋、大高橋、念仏橋、大橋、門田橋、菊井橋などがある。

④ 大橋
大高川に架かる橋で天保十二年（1841）の村絵図には板橋で描かれており、大高ではメインの橋であった。木橋から昭和三二年にコンクリート橋に、現在の橋は河川改修後の昭和五八年に竣工した。

⑤ 江明公園（えみようこうえん）（緑区大高町江明）
元大高町役場跡地で、造り酒屋であった餘延年（大高の文人・豪刻家）の宅址の碑がある。餘延年は延享三年（1746）大府市共和町ハツ屋に生まれ文政二年（1819）没七四歳。千秋墨山、成修処士などの号をもち、通称山口九郎左衛門。豪刻は京都の高芙蓉に師事、藩主など著名人の印を豪刻している。俳句（俳号墨山）を久村暁台、墨蘭を増山雪斎に学ぶなど大高きっての文人であった。また陶芸大高焼きにもかかわりがある。

⑥ 酒蔵
現在大高には三軒の酒蔵がある。
萬乗醸造・寛政三年（1791）創業、（緑区大高町西門田 41）TEL052-621-2185
銘柄「釀し人九平次」「酒望子」
神の井酒造・安政三年（1856）創業、（緑区大高町高見 25）TEL052-621-2008
銘柄「神の井」（氷上姉子神社に因み神の井があるという）「寒九の酒」
山盛酒造・明治二十年（1887）創業、（緑区大高町高見 74）TEL052-621-2003
銘柄「鷹の夢」（一富士二鷹三茄子に懸けてつけられた）「浮かれ狸々」
大高に酒造業が生まれた起源は詳しく解らない。江戸時代の元禄十年（1697）に酒株の制度が敷かれ村内二百石で、將軍綱吉の時代には全国に運上金が賦課されかなり重税であったが、その後石高によって一石につき銀五匁を冥加金として上納させたが、尾張藩では藩財政逼迫のため百石に付き百五十兩で新株を無制限に許可したので、新蔵が続出しかなり生産量があがり、鳴海の下郷家の千代倉のように遠く江戸まで樽船で運ばれた。明治となって石高制になり明治十八年には九軒の酒蔵があり四千五百石の生産があった。

⑦ 青峰山観音
念仏橋の南西の袂に小さなお堂があり青峰山観音が祀られていたが今は薬師寺にある。この辺りの大高川には江戸時代より船の出入りが盛んで湊の在ったところで、昭和の初め頃までは伊勢参りの船が出ていた。青峰山観音さんは高見、込高、中之郷（現中屋敷）の三ヶ所に在り、海上安全に御利益のある志摩の青峰山正福寺（真言宗）の十一面観音菩薩像を勧請して湊船着き場に祀られて来た証である。青峰山は古来五百米山頂の寺の灯明が志摩の海を行き交う船の道標になって信仰を集めて来た。

⑧ 医王山薬師寺 曹洞宗（緑区大高町高 75）TEL052-621-8222
元禄七年（1694）春江院五世愚徹が開基、本尊は伝湛慶作の薬師瑠璃光如来像で秘仏、十六年毎にご開帳される。古来薬師堂と称し長い間尼寺であった。観音堂、弘法堂が境内にあり、最近念仏橋の袂にあった青峰観音が安置されている。春江院の末寺。

⑨ 新町西口地蔵尊（緑区大高町折戸）
折戸の三角辻にお地蔵さんがあり鳴海から旧知多郡道（常滑街道）の道標がある。左ひらしま（東海市荒尾の一部江戸時代の平島村）右よこすか（東海市横須賀町）と道しるべ。地蔵、御手水鉢に文字らしきものが彫ってあるが判読できなくて不明。この辺りは砂州の一部で南に大砂子墓地が在る。

⑩ 観音寺の古井戸（緑区大高町西門田）
萬乗醸造から春江院への坂道の途中右手に、かつては豊富で綺麗な伏流水が湧いていた古井戸がある。この辺りの家庭ではこの井戸の水を利用していた。この地に廃寺の観音寺があったのでその名がある。また以前は酒造りの水として使用していた井戸が四本ある。

⑪ 日陽山東昌寺 曹洞宗（緑区大高町西門田 15）TEL052-621-0375
創建は不明で大高城大手門近くに在りし寺であったが春江院の末寺となり、春江院四世雪嶺本簀が中興の開山で寛文六年（1666）現在地に移転したと言われている。本尊は聖観世音菩薩座像で観音寺の井戸より拾い上げたものと伝えられている。平成八年三月本堂が建替えられ水子供養地蔵尊が建立された。

⑫ 大高山春江院（しゅんこういん）曹洞宗（緑区大高町西向山 5）TEL052-621-2041
国の登録文化財指定
弘治二年（1556）の創建。大高城主水野大膳が父の和泉守忠氏菩提のため、尾張横須賀長源寺四世峰庵玄祝を開山とし、和泉守を開基としたのにはじまる。父の法名「春光全芳禪定門」により春江院と号す。本尊は多宝如来。石畳みの参道を上がって「大高山」の山門をくぐると大きな「不許葷酒入山門」の石碑が目に入る。正面に本堂、右手には大きな庫裡、鐘楼があり、書院、不老閣、茶室、観音堂、弁財天堂等が広大な林叢の

境内にある。本堂は文政十三年（1830）再建、正面八間半、奥行八間、単層入母屋造、本瓦葺で鐘楼は慶応元年（1865）に再建された。書院は有松絞の開祖竹田庄九郎宅にあった江戸時代参勤交代の諸大名や公家の休息に当てられていたもので、明治十二年（1879）に当山に移築されたものであり襖絵は狩野永秀画「しらさぎ」が描かれている。大高町に末寺として明忠院、東昌寺、薬師寺、弥陀寺がある。
墓地には当地の文人餘延年（山口墨山、篆刻、俳人、1745～1819）山口耕軒（墨山の子私塾時習館学頭、1767～1837）下村丹山（画家、一六羅漢奉納、1804～67）下村実栗（茶人久田流、1833～1916）らの墓がある。

⑬ 大高城跡（緑区大高町城山）国の史跡指定
大高城跡は寛文村々覚書によると標高二十米、東西百六米、南北三二米の台形の丘で四方に二重の濠があったが、現在は土居、内濠とも形態は殆ど認めがたい。古くは天白川の北方は年魚市潟といわれこの地からの景観は絶景であった。築城年代は不詳であるが永正年間（1504～1521）の頃に土岐氏の守護代出の花井備中守が、天文・弘治（1532～1557）の頃には知多郡東浦の水野忠氏・大膳父子が居城した。桶狭間の戦いの直前に鳴海城主山口左馬助に攻められて落城。今川方の鵜殿長助の支配下にあり、織田信長が鷲津・丸根の砦を築いて対抗したが、松平元康（徳川家康）が弱冠十七歳で兵糧入れに成功したのは有名。合戦後元康は岡崎に帰り廃城になった。その後元和二年（1616）志水忠宗（1574～1626 徳川義直公の母相応院の兄）が尾張藩の家老（一万石）として城跡に居宅を設け明治三年（1870）に廃した。昭和十三年国指定の史跡になった。
本丸西端に鶴岡八幡宮を勧請した城山八幡宮があり、寛文十年（1670）に志水甲斐守が寄進した石灯笼がある。

⑭ 秋葉社（緑区大高町高見 32）
祭神は火之迦具土神（迦具突地神）で創建は不詳だが、社寺明細帳には寛政十二年（1800）の勧請、しかし常夜灯の銘には明和七年（1770）になっている。昔から大高は火事が多く村民が恐れていて防火の神である秋葉社を最も賑やかな T 字路のこの土地に祀ったのではないと言われる。このあたりに江明市場が立ち宝永（1704～1710）の頃から馬市や諸商いが、春秋に二回三十日間ずつ行われ、享保十七年（1732）頃から六斎市（月に六度日を定めて市を開く）が許された。この付近を単に「辻」とよび大高の中心であった。また大高の祭事の際にはここに集合して出発、解散するところである。

⑮ 弥陀寺 曹洞宗（緑区大高町江明 24）
春江院六世泰年性印が宝永六年（1709）に創建、本尊は阿弥陀如来像で古くは十王堂、阿弥陀堂と称した。春江院の末寺で今は無住。江戸時代から明治期にかけて大高川岸で仮小屋を建て、仏像の掛図を掛けて虫供養を行った。当時門田橋を塔婆橋と言っていた。近くの江明公会堂の軒先には「力」と彫られた芋頭の形をした石が置いてあり、昔若者達が力試しに使った「力石」で神聖なものとされた。

⑯ 白祐山海岸寺 天台宗山門派（緑区大高町田中 14）TEL052-621-4808
大高城跡の東端の国の史跡指定地内にあり、天正二年（1574）玆慶宝印の開山、寛文村々覚書では源光院と称していたが元禄七年（1694）の由緒書では海岸寺になっている。もともとは入江だった大高川の川口海岸付近にあったが宝暦七年（1757）に現在地に移転、広い寺域と伽藍があったが寛政のころの記録には海岸寺、源光院、三光坊のみで他は廃絶していたと思われる。江戸時代の火災で記録類が焼失し縁起は不詳。今次大戦後本堂内陣の修復、庫裏の増築、庭園、参道などを修築して境内を整備し寺観が一変した。本尊は伝定朝作聖観音菩薩像、現代の作であるが緑区唯一の仁王門がある。また本堂や客殿の襖絵が立派、京都万福寺の宝珠山人の「龍」の南画、中村哲也画家の「龍」の日本画がすばらしい。一月四日の「太黒天の薩摩焼き」と二月三日の節分は一見の価値があり。

⑰ 田中の神明社（緑区大高町田中 46）
祭神は国常立神。大高小学校正面前にあり、石段を三十段ほど上がった小高い丘に繁茂した樹木の中に三尺四方の小さな祠がある。記録によると慶長以前から除地で村の支配地で、土地の人は「オシャグジ」と呼んでいて、東海地方から関東信州方面で信仰された古い農耕の神様、庶民の神様シャグジ（社宮司、石神）であとから神明社が合祀され名が神明社になった。大きな松、榎の木があったが台風で倒れ、近時は住宅が密接し住時の面影はない。

⑱ 津島社（緑区大高町北大高畑 15）
森の里団地の西側の小高い丘の森。祭神は素戔鳴尊で創建は不詳、江明地区の氏神で俗に「お天皇さま」とも言われている。寛文村々覚書には「天王」、天和二年（1682）、寺社方書付之帳には「天王社内二反五畝・・・」との記録をみればそれ以前からの古社であることが解る。昭和四十年に改築され本殿は間口一・五米奥行六十糎の立派なお社、隣に延宝四年（1676）に勧請された天満社で九十糎四方の社がある。江戸時代には天王社、天神社と呼ばれ明治になってから現在の津島社、天満社に。また境内にある手洗鉢には安永三年（1774）の銘があり、参道入口には明治十三年建立の「大高村南部農車道開墾之碑」がある。

⑲ 碑石公園（緑区森の里2丁目）
森の里団地の中程元日本紡績（現ユニチカ）工場跡地に山口洪崖（1882～1947）の「鴻邱春詞碑」がある。父大邱（1851～1936）は漢学に長け「用拙塾」を開き郷党の教育につくし町長、県会議員として活躍、その長男として薫陶を受け漢詩文に長じ碑文の「鴻邱春詞」他多くの漢詩を著し、丁度大日本紡績を誘致したときの町長を務めていて、後の大高町発展に寄与した彼の功績を讃え顕彰したものである。また洪崖の子息紹一も名古屋市合併前の最後の町長を務め山口家は三代にわたり町政に貢献した。大日本紡績は昭和十年（1935）敷地三十万平方メートルに建設され、一度に千人程の人口が増え大高町に一大転機をもたらした。四十年ばかり操業し昭和五十年に閉鎖、その跡地に森の里団地や大高中学校が誕生した。
鴻邱春詞
粉蝶成団夢不聞
粉蝶団を成し夢しずからず
多雲此处賽芳山
多雲此处に芳山に賽す
看花好向西郊去
花を看好し西郊に向かつて去れば
身在黄金色相間
身は黄金色相の間に在り

⑳ 菊井橋（緑区大高町天神）
大正末期頃より菊井紡績が進出するも不況の最中でなかなか操業できず、その間に橋が完成し橋の名前になった。その後菊井紡績は豊田紡績に吸収され、その跡地に大日本紡績が工場を完成させた。

㉑ 竜宮社（緑区大高町中川）
元は扇川と大高川の合流地点通称「三つ叉」の西南の河川敷きに鎮座していたが、堤防工事により現在地丸の内北交差点の北百三十米の地に移転した。扇川堤防の脇に石垣で高くされた神殿がある。もとの地には元造船所があり観請されたようで創建など詳しいことは解らない。